

PFASの多項目分析

PFASとは

PFAS（パーフルオロまたはポリフルオロアルキル化合物）は、「完全にフッ素化されたメチルまたはメチレン炭素原子を少なくとも一つ含むフッ素化合物」と定義されており（経済協力開発機構 報告書より）、数千種類を超える関連物質について環境調査とリスク評価が必要とされています。

東京久栄が提供するサービス

30種類のPFAS一斉分析が可能な国際標準分析法であるISO21675を用いてPFAS（水試料、土壌試料、大気試料）の多項目分析を行います。一般環境・作業環境測定、環境修復技術実証試験などに対応いたします。

分析項目（30項目 測定感度：0.01ng/L～0.2ng/L）

PFBS、PFHxS、PFHpS、PFOS、PFDS、FOSA、N-MeFOSA、N-EtFOSA、N-MeFOSAA、N-EtFOSAA、6:2FTSA、8:2FTSA、9Cl-PF3ONS、PFBA、PFPeA、PFHxA、PFHpA、PFOA、PFNA、PFDA、PFUnDA、PFDoDA、PFTTrDA、PFTTeDA、PFHxDA、PFOcDA、8:2FTUCA、8:2diPAP、HFPO-DA、DONA

測定感度につきましては、試料と項目によって変わるため詳細はお問合せください。

また、PFOS/PFOA異性体等、上記以外の項目についてはお問合せください。

東京久栄のPFAS問題への取り組み

- PFAS対策技術コンソーシアム 参加
- 環境研究総合推進費「ペルフルオロアルキル化合物「群」のマルチメディア迅速計測技術と環境修復材料の開発」 参加
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
技術研修「ペルフルオロアルキル化合物に関する分析方法の習得」
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
沖縄県環境試料採集作業（令和4年度）

自然を識り、豊かな未来につなぐ

